

ブリティッシュコロンビア州の大学による 先住民族教育における民族大学の役割

－ 先住民族言語文化教員養成制度を中心に －

鹿児島純心女子大学 広瀬 健一郎

要旨

本稿の目的は、先住民族の言語・文化の継承に対して大学がどのような役割を果たし得るのかを、カナダ国ブリティッシュコロンビア州（BC州）の州立大学の事例に即して考察することである。州立大学の先住民族言語文化の継承に関する施策を明らかにしつつ、先住民族居住地に設置されている「民族大学」の果たす役割を明らかにしようとするものである。本稿では先住民族言語文化を教授する教員養成の仕組みに着目し、制度の概要や特色を考察した。その結果、先住民族言語科目を大学の単位として認定したことが、その後の先住民族言語プログラムや先住民族言語教員養成課程の設置につながったこと、そこでの計画や運営には先住民族自治体や「民族大学」が深くかかわってきたことを明らかにした。また、先住民族言語教員の養成が単なる教員養成ではなく、この制度は先住民族言語の継承者を育成する制度でもあることを明らかにした。「民族大学」が、先住民族言語・文化を継承する制度的基盤となっていることを明らかにした。

キーワード：先住民族・先住民族言語・先住民族大学・教員養成・危機言語・カナダ

はじめに

本稿の目的は、先住民族の言語・文化の継承に対して大学がどのような役割を果たし得るのかを、カナダ国ブリティッシュコロンビア州（BC州）の州立大学（UniversityおよびInstitutes）の事例に即して考察することである。本稿では、州立大学の先住民族言語文化の継承に関する施策を明らかにしつつ、先住民族居住地に設置されている「民族大学」（以下、先住民族大学と略記）の果たす役割に注目する。

カナダの先住民族言語の復興に成功している事例では、その多くに、学校教育の中に先住民族言語・文化の教育が位置づけられている。こうした取り組みが、単に、個々の学校の努力によるだけでなく、教育制度の中で、正規の授業科目として位置づけられている点が重要である。ブリティッシュコロンビア州では、現在、17の先住民族言語が「第二言語科目」のひとつに定められており、大学入試要件科目として認められている（Government of B.C.）。このような取り組みを実現するためには、これらの科目を担当する教員が必要である。そこで本稿は、先住民族言語・文化の教科化を可能とする制度的条件のひとつとして、州立大学における先住民族言語教員養成の仕組みを明らかにすることを課題とする。

これまでに、日本語で発表された研究においては、先住民族言語や文化を担当する先住

民族教員の養成について検討した論文は、筆者が調べた限りでは、発表されていない。北米で発表されている研究では、大学による先住民族言語・文化に関する取り組みについて様々な論考がある。しかしながら、BC州の州立大学すべてを射程に入れた上で、先住民族言語・文化の継承に関する取り組みをどのように展開しているかについて、1990年代から2017年までの動向をとらえた論考は見当たらない。

以上のような研究状況をふまえ、本稿では、BC州の州立大学全14大学（カレッジを除く）のうち、先住民族言語や文化を扱う部局の概要、先住民族言語教員の養成に関する制度の概要、先住民族言語教員の養成における先住民族大学の役割を明らかにすることを課題とする。資料にはBC州政府の政府刊行物、先住民族団体の刊行物、各大学の学校文書やウェブサイト掲載の記事等を用いることとする。

なお、本稿に言うファーストネーション（First Nation）とは、いわゆる「インディアン」のことである。とくに断りのない限り、本稿に言う先住民族とは「ファーストネーション」の人々およびその自治体を指すこととする。また Aboriginal および Indigenous の訳語には「先住民族」、Native の訳語には「先住民」を用いる。先住民族言語については、本来はカナ表記をした上で原語を示すべきところであるが、筆者の力量不足により、発音が困難なものが多く、カナ表記を断念した。

1. 州立大学における先住民族教育体制

(1) 先住民族学科の設置状況

14の州立大学のうち先住民族研究に特化した学科を持つ大学は5つある。表1にこれを示す。

表1 先住民族学科をもつ州立大学

プリティッシュコロンビア大学 (University of British Columbia : UBC) 文学部 (Faculty of Arts): ファーストネーション・先住民族学科 (Department of First Nations and Indigenous Studies) ムスキアム言語文化学科 (Musquiam Language and Culture Department)、SLAIS ファーストネーション学科 (Department of SLAIS First Nations Studies) 教育学部 (Faculty of Education): 先住民族教員養成課程 (Indigenous Teacher Education Program) 法学部 (School of Law): 先住民族法律学科 (Indigenous Legal Studies 先住民族法学科)、先住民族コミュニティ法律相談学科 (Aboriginal Community Legal Consultation)
ビクトリア大学 (University of Victoria : UVIC) 教育学部 (Faculty of Education): 先住民族教育学科 (Indigenous Education Department)
サイモンフレーザー大学 (Simon Fraser University : SFU) 文学・社会科学部 (Faculty of Arts and Social Science): ファーストネーション学科 (Department of First Nations Studies)
ノーザンブリテッシュコロンビア大学 (University of Northern British Columbia : UNBC) 文学・社会・健康科学部 (Faculty of Arts, Social, and Health Science): ファーストネーション学科 (Department of First Nations)
バンクーバーアイランド大学 (Vancouver Island University) 人文社会科学部 (Faculty of Arts, Humanity and Social Science): 先住民族学科 (Department of Indigenous/XWULMUXW Studies)

(出典) 各大学のウェブサイトより作成 (2018年2月28日採取)

このうちファーストネーション学科ないし先住民族学科では、学士（文学ファーストネーション学専攻：Bachelor of Education in First Nations Studies）ないし学士（文学先住民族学専攻：Bachelor of Education in Indigenous Studies）を授与し、修士や博士課程をおくところもある。こうした学位の存在は、カナダでは、「ファーストネーション学」ないし「先住民族学」という学問領域が成立していることを意味している。

学士（文学ファーストネーション学専攻）の要件は、たとえば、UNBC の場合、専門科目 48 単位である。ファーストネーション学の開講科目は 115 科目 363 単位である。履修方法は、表 2 のとおりである（UNBC 2017）。

表 2. UNBC ファーストネーション学専攻のカリキュラム

レベル100・200科目群 (27単位以上: およそ9科目以上)
必修科目: カナダの先住民族、ファーストネーション研究の射程
選択必修科目 (任意の1科目)
ファーストネーション言語レベル1、ファーストネーション言語レベル2、又はNisga'a語レベル1、Nisga'a語レベル2、Dekeh/CARRIER語レベル1、Dekeh/CARRIER語レベル2、Haisla語レベル1、Haisla語レベル2、Tsimshian語レベル1、Tsimshian語レベル2、ファーストネーション文化レベル1、ファーストネーション文化レベル2、Dekeh/CARRIER文化レベル1、Dekeh/CARRIER文化レベル2、Tsimshian文化レベル1、Tsimshian文化レベル2、Nisga'a文化レベル1、Nisga'a文化レベル2、メイティ研究レベル1、メイティ研究レベル2
選択科目 (任意の科目18単位以上: およそ6科目以上)
Gitxsanimx 語レベル1、 Gitxsanimx 語レベル2、 Gitxsanimx 文化レベル1、 Gitxsanimx 文化レベル2、ファーストネーション言語レベル3、ファーストネーション言語レベル4、ファーストネーション文化レベル3、ファーストネーション文化レベル4、ファーストネーション語イマージョン、先住民族医療I、先住民族医療II、先住民族健康哲学、ファーストネーション口承文学、伝統的生態学的知識入門、先住民族コミュニティの諸問題
レベル300・400科目群 (21単位以上)
必修科目: ファーストネーション学研究法、ファーストネーション研究インターンシップ
選択科目 (任意の科目15単位以上: およそ5科目以上)
BCファーストネーション芸術・物質文化、ファーストネーションの健康とヒーリング、ファーストネーションの宗教・哲学、先住民族環境哲学、先住民族女性学入門、先住民族健康マネジメント、ファーストネーション言語構造論、法と先住民族、ファーストネーション芸術・物質文化特論、政治経済とファーストネーション女性、先住民族女性学特論、ファーストネーションの歌と詩、ファーストネーション文学、オーラルヒストリー、ファーストネーション研究特論他

(出典) UNBC (2017) 245-252.

カリキュラムの中に、ファーストネーションの言語・文化が位置付けられている。BC州には先住民族言語が多数存在しているが、UNBCの位置するBC州北部の個別の言語・文化に関する科目を設置している点に特色がある。選択必修科目には、Carrier語 Carrier文化、Haisla語 Haisla文化、Tsimshian語 Tsimshian文化、Nisga'a語 Nisga'a文化の4言語文化のみが指定されているが、選択科目には、表中の Gitxsanimx 語 Gitxsanimx 文化の他にも、Tsillhqot'in 語 Tsillhqot'in 文化の科目が設置されている。すなわち、先住民族言

語文化についての一般論ではなく、BC州北部の主な先住民族言語文化を段階的に学べるようになっている。しかも、科目の中には、「ファーストネーション語イマージョン」なるものもあり、ここでは、上記の言語の他、Tlingit 語、Sekani 語、Beaver 語、Slavy 語、Tahltan 語、Wet'suwet'en 語、Athabasskan 語、Shuswap 語にも対応し、会話能力を高めることを目的としている。ファーストネーション学を修めるには、具体的な言語・文化の習得をも求めていることが重要である。

このような先住民族研究に特化した学科ではなくとも、先住民族に関する研究を主専攻とする学位を出す学科もある。表1に掲げた大学のウェブサイト等によれば、UVIC 人間社会開発学部 (Faculty of Human and Social Development) 修士課程の文学先住民族統治論専攻 (MA in Indigenous Governance) や学士課程の文学先住民族保育専攻 (BA in Child and Youth Care-Indigenous Initiative)、先住民族ソーシャルワーク学 (BSW in Indigenous Specialization)、UNBC 科学マネジメント学部 (College of Science and Management) 環境計画学科 (School of Environmental Planning) 計画学ファーストネーション計画専攻 (B.Pl in First Nations Planning)、ニコラバレー職能開発大学 (Nichola Valley Institute of Technology : NVIT) ソーシャルワーク学科の先住民族ソーシャルワーク学 (Aboriginal centered B.SW) 等がある。文学先住民族統治論は「社会開発」の分野において、先住民族コミュニティに固有の問題群があることを示唆する。保育やソーシャルワークにおいても、先住民族固有の保育や社会問題を把握、分析する力が、とりわけこれらの専門職には求められることを意味していよう。これらは、先住民族研究に特化した学問領域だけでなく、様々な学問領域において、かかる学問を先住民族の観点からとらえなおすことが可能であるとともに、そのようなとらえ直しが新たな学問領域を開いていることを意味している。

(2) 先住民族教員養成課程の設置状況

先住民族学生を受講対象とする教員養成課程は UBC 教育学部の先住民族教員養成課程 (Indigenous Teacher Education Program : ITEP)、SFU のコミュニティ教員養成プログラム (Community-Based Teacher Education)、UVIC 教育学部先住民族教育学科 (Indigenous Education Department) の三つがある。ITEP は 1974 年 9 月に、先住民族からの要望をうけて設立され、履修者は小学校および中等学校の教員免許状を取得できる。ITEP には 4 つのフィールドセンターがあり、UBC バンクーバキャンパス (ムスキアム民族居住地)、リルワット (リルワット民族居住地)、フレーザーバレー (ストロー民族伝統的領地)、カリブー (トンプソンリバー大学 (Thompson River University : TRU) ウィリアムレイクキャンパス) に設置されている。学生は、入学後の 2 年間でこれらのフィールドセンターで学習したあと、UBC バンクーバキャンパスに移動し、残りの単位を取得する。ITEP は「諮問会議」を設置しており、先住民族教育家、UBC 教員、先住民族教育コーディネーター代表者、BC 教員協会 (BC College of Teachers : 教員免許授与機関) 代表者、学生代表によって組織されている。また各フィールドセンターは、それぞれの地域の先住民族自治体や教育委員会等とのパートナーシップのもとに運営されている (UBC n.d.)。

SFU のコミュニティ教員養成プログラムは、SFU が 1973 年以来取り組んできたもので、先住民族居住地にて教員養成をおこなうものである。これは、1973 年にマウントカリーの

先住民族自治体の教育当局から SFU に、先住民族の補助教員に教員免許を与えさせることはできないかとの相談がもちかけられたことを機に発足した (Barman 1987, 212)。以後、ノースオカナガン、プリンスルパート、アラートベイ、カンループスの先住民族居住地に設置された。現在はプリンスルパートのみで行われている (SFU n.d.)。

UVIC 教育学部先住民族教育学科は、学士 (教育学先住民族言語復活学 : Bachelor of Education in Aboriginal Language Revitalization) を授与している。この学位を受けた者は、幼稚園から中等学校までの BC 州の教員専門免許状を得るとともに、先住民族言語・文化の教科を担当することができる。1 年目は先住民族自治体の教育関連施設にて履修し、先住民族言語復活履修証明書を得る。2 年目は、UVIC がパートナーシップ協定を締結している先住民族自治体において先住民族言語上級話者となるのに必要な訓練と教授法の訓練を受けて、先住民族言語復活専門士の資格を得る。先住民族言語復活専門士の資格を得た者のみが 3 年生に進級する (Craig 2006, xx)。

UBC、SFU、UVIC、いずれの取り組みにおいても、一定期間、先住民族コミュニティにて履修する仕組みとなっている点に特色がある。可能なかぎり先住民族自治体に居住しながら、教員免許を取得させようとしている。またいずれの取り組みにおいても、先住民族自治体ないし先住民族自治体の教育機関の協力を得て運営されている。現地養成と先住民族の意志決定過程への参加の保障に特色がある。

2. 先住民族言語文化の教科化とファーストネーション言語教員免許状の創設

学校における先住民族言語の教授は、1970 年代ころより、先住民族居住地の学校を中心に行われてきた。インディアン北方開発省も、1967 年には先住民族言語文化の授業を導入するよう勧奨していた (広瀬 2015, 65)。しかしながら、BC 州政府がこれを高等学校卒業要件を満たす正規科目とする方針を発表したのは 1996 年のことであった。1996 年、BC 州教育省は、「BC 州言語教育の方針とガイドラン (*Language Education in B.C. Schools Policy and Guidelines*)」を発表した (Ignas, 1998, 74)。地方教育委員会や教育当局が自ら先住民族言語教育の「学習指導要領 (Integrated Resources Package)」を策定し、州がこれを認めた場合、第二言語科目として、フランス語等の科目に充当できるものとした (広瀬 2014, 170)。したがって、先住民族言語は、正式な教科となったのであり、その単位は、高等学校卒業資格や大学入学試験の内申書審査に利用できる。

先住民族言語教員への教員免許状の授与は、先住民族言語の教科化よりやや早く、1990 年度に制度化された (Ignace 1998, 104)。BC 教員協会の代表者と先住民族コミュニティの代表者らとの協議によって、教育職員法 (Teacher Act [SBC 2011] Chapter 19) 90 条の条例 (By-Law) を改正し、新しい免許状の種類として、「ファーストネーション言語教員免許状 (First Nations Language Teacher Certificate)」を創設した (*ibid*, 104)。この免許状は先住民族居住地の学校は無論のこと、州政府管轄下の公私立学校で有効な正規の教員免許状である (Teacher Regulation Branch, n. d.)。

教員規則第 2 条 A の 1 項には、次のように定められている (ByLaw2, Teacher Regulation Branch)。

ファーストネーション言語教員免許状の申請者にあつては、適当と認められたファーストネーション言語当局によって、当該申請者が上級の言語話者である者として BC 教員協会教員規則課に推薦されなければならない。

ここでいう「ファーストネーション言語当局 (First Nations Language Authority)」とは、「先住民族自治体その他の団体」であつて、教員規則課に適当とみなされた組織を言う (ByLaw P2.B.10 条)。これまでに 30 団体がファーストネーション言語当局として認可を受けている (Teacher Regulation Branch 2018 a)。BC 州の先住民族言語は 39 種類であるから (BC Studies n.d.)、7 割もの言語が、正規の教員免許をもった教員によって教授される仕組みができあがっていることになる。これらの団体は、この規則が施行された後、先住民族団体が自ら設立したものである。この団体によって推薦されたものがファーストネーション言語教員免許状を手にする事から、先住民族は、自ら先住民族言語教員を任命する仕組みがあるのである。ただし、先住民族言語当局は、州政府の認可を必要とする点では、あくまでも州政府の一定の支配のもとでの「自治」である点には注意が必要である。

「ファーストネーション言語当局」は、当該言語に堪能な者を教員として推薦するだけでなく、独自に、言語話者の養成に取り組んできた。たとえば、セクウェプムウ文化・言語協会 (Secwepemc Culture and Education Society) は、SFU と共同で、1990 年、シューシュワップ言語コース (Shuswap Language Course) を、1991 年度には Secwepemc 語イマージョンプログラムを追加するとともに、先住民族言語教員を対象とする先住民言語教員訓練プログラムを開設した (SCES and SFU 1991, 40-41)。1992 年度には Secwepemc 語コース、St'at'imcets 語コース、Nle7kepmx 語コースの 3 コースと先住民言語教員訓練プログラムを開設した。1994 年度には Secwepemc 語コースをカンループスとウィリアムズレイクの 2 箇所で開催するとともに、St'at'imcets 語コースを上流方言と下流方言とにわけて開設するなど、開設場所を広げた (SCES and SFU 1996, 54-63)。またストロー民族自治体も、SFU の協力を得て、1994 年にストロー語プログラム (Stó:lō Shxweli Halq'eméylem Language Program) を開設している (St:lō Nation 2017)。

ここで重要なのは、先住民族言語や文化教員の養成が、「ファーストネーション言語当局」の設置を機にはじまったものではないことである。セクウェプムウ文化・教育協会長のロン・イグナス (Ron Ignace) は、次のように述べている (SCES and SFU 1991, ii)。

現在、BC 州の 28 の言語のうち 3 つが危機言語のリストにあげられ、残りの 25 言語は消滅の崖っぷちにある。もしこれらの言語が死滅するのを許してしまえば、大きくかつ永遠に続く恥辱が、この州に与えられることになる。このようなことを起こしてはならないし、起こすことはできない。先住民の言語は、先住民の社会的、文化的アイデンティティと切り離すことのできないものだ。もしわれらの言葉が死滅すれば、われらの文化遺産とアイデンティティの巨大にして重要な部分が失われることになるのだ。……セクウェプムウ民族は、過去 20 年、われらの言葉を小学校、中等学校、中等後の学校で承認し、単位認定するよう闘ってきた。この点で、重要な進歩があつた。この州の歴史上はじめて、主にサイモンフレーザー大学が、大学レベルの先住民言語コースに単位を与えたのだ。

「過去20年」とあるように、息の長い運動の末に、サイモンフレーザー大学の協力を得て、シューシュワップ言語コースが実現したのである。このようなコースの設置が、先住民族言語消滅に対する強い危機感の中で実現をみたこと、このような危機を脱する上で、学校教育の中で先住民族言語を学ぶ機会を保障することが注目されていたことが重要である。そして、大学における先住民族言語学習への単位認定が、小学校や中等学校に先行したことも重要である。学校教育における先住民族言語教育の保障にあたって、大学から行動にあたることの重要性を示唆していよう。

さらに、セクウェプムウ文化・教育協会は、1994年頃には、先住民族言語上級話者資格プログラム案 (Certificate Program in Aboriginal Language Proficiency) を SFU 教育学部言語学科に提案して支持を得 (SCES and SFU 1994, 62)、1996年までには発足させている (SCES and SFU 1996, 63)。このプログラムは Secwepemc 語話者と SFU の教員とが共同で教授し、単位は SFU の単位として認められるものである。対象となった言語は Secwepemc 語、St'at'micets 語、N'lakapamuxcin 語で、Secwepemc 語はカンループス、チェイス、ウィリアムレイク、Upper St'at'micets 語はリルワット、Lower St'at'micets 語はマウントカリー、N'lakapamuxcin 語はメリットの各先住民族居住地に、先住民族言語上級話者プログラムが設置された。Upper St'at'imc 語当局では、先住民族言語上級話者資格取得者に対し、さらに口頭試問を課し、合格した者をファーストネーション言語教員免許状取得候補者として推薦していた (Ignance, 1998, 111)。

1998年の時点で、先住民族言語プログラムを設置していたのは、以下の機関である (*ibid.*, 107)。

- ・エノウィキンセンター (En'owikin Centre)
- ・インカ/デネー言語研究所 (Yinka Dene Language Institute)
- ・セクウェプムウ文化・教育協会 (セクウェプムウ教育研究所 Secwepemc Educational Institute)
- ・ニスガ大学 (Wilp Wilxo'oskwahl Nisga'a Institute)
- ・SFUプリンスルパート教員養成プログラム

エノウィキンセンター、インカ・デネー言語研究所、セクウェプムウ文化・教育協会、ニスガ大学のいずれも、先住民族自治体に設置され、かつ、先住民族自治体内の住民組織によって運営されている先住民族大学である。このうち、インカ/デネー言語研究所除いて、いずれも先住民族成人学習高等教育協会の会員校である。先住民族言語学習の制度的基盤として、これら先住民族大学の存在を確認しておくこととする。

3 ファーストネーション言語文化教員基礎免許状の創設

セクウェプムウ文化・教育協会は、1991年、SFUの協力のもとに、先住民族言語教員訓練プログラムを設置した。このプログラムは、現職の先住民族言語教員を対象とするプログラムである。年齢やアカデミック科目の習熟度という点から先住民族言語のレベルや経験が不足している教員のニーズに応えようとしたものであった (SCES and SFU 1991, 30)。このプログラムは、ファーストネーション言語教員に、授業観察の技法や学級運営

の技法、授業計画の方法などを教授するものであった。1994年のプログラム報告書によれば、「先住民言語カリキュラム」の授業を通じて、「St'at'imic 語4年生」のカリキュラムと「Secwepmc 語（幼稚園～3年生）」のカリキュラムが開発され、パイロットプロジェクトとして、それぞれの先住民族自治体の小学校のカリキュラムに導入された。先住民族言語教員訓練プログラムは、大学レベルのプログラムというだけでなく、研究と教育を一体のものとして展開するものであった。一方で、セクウェプム文化・教育協会は、このようなプログラムを公認するよう、BC教員協会に交渉していた (*ibid.*)。

1997年、先住民族自治体の代表者らで組織するファーストネーション教育運営委員会 (First Nations Education Steering Committee : FNEESC) は「先住民族言語教員訓練プログラムプロジェクト」を立ち上げ、効果的な教員養成の計画と実施についての調査を行った (FNEESC 1998, 6)。この調査をおこなったのも、セクウェプム文化・教育協会であり、1998年に調査結果をまとめている。この調査結果によれば、ファーストネーション言語教員が、教員になるにあたって以下のようなスキルを身に着けることが必須だと考えているとのことであった (Craig, 2006, xiv)。

- ・ 熟練度の高いファーストネーション言語による会話能力
- ・ 学級経営の技能
- ・ 言語教育の教授法
- ・ カリキュラム開発のための技術
- ・ ファーストネーション言語の読み書きの技能
- ・ 日々の組織上のスキル
- ・ 英語の筆記によるコミュニケーション技能

先住民族言語教員たちは、必ずしも教授法の訓練を受けているわけではないので、かかるスキルの必要性を痛切に感じていたと思われる。この調査結果をふまえてファーストネーション教育運営委員会は、連邦政府から補助金を得て、「先住民族教員養成夏季セミナー」と先住民族言語教員養成プログラム設立準備コミュニティ会議 (Preliminary Community Work regarding Aboriginal Language Teacher Training Programs)」を設置した。夏季セミナーには89名の先住民族コミュニティの住民が参加し、83名が修了したという (*ibid.*, iv)。

コミュニティ会議は9つの先住民族自治体で開催され、BC州の「教員基礎免許状 (Developmental Standard Term Certificate)」が得られるよう、先住民族言語教員養成プログラムの開発がすすめられた (*ibid.*)。「基礎免許状」は、有効期限が60ヶ月あり、所定の単位を履修することによって「専門免許状」に更新することが可能である (Teacher Regulation Branch n.d.)。「ファーストネーション言語文化教員基礎免許」の創設は、ファーストネーション言語教員に「教員基礎免許状」を取得させるとともに、学士 (教育学) の取得を通じて、「教員専門免許状」を取得する道を開くことと、教育に不慣れな言語教員に、より迅速に教育に入っていけるよう支援することを目的とするものであった (FNEESC 2007, 13-14)。教員専門免許状取得者は、小学校においては、どの教科も教授することが可能である。ファーストネーション教育運営委員会先住民族言語小委員会はBC教員協会と協議をすすめ、1999年、最終合意に達し、「ファーストネーション言語文化教員

基礎免許プログラム」のフレームワークが誕生した (FNESC 2000, 11)。各先住民族言語関係機関はこのフレームワークに基づいて BC 教員協会等と具体的なプログラムを協議し、2001 年、最初の「ファーストネーション言語文化教員基礎免許プログラム」の設置を見た (FNESC 2002, 12)。

このプログラムは、3年の養成年限あるいは90単位の履修を要する。またこのうち22単位は教員養成課程の科目でなければならない (FNESC 2009, 15)。ここでは、Nisga'a 語教員養成課程を例に示しておく (表3)。専門とする言語への徹底的な習熟の上に、教職科目と一般教育科目を履修させている。最初の2年間に、まず言語科目を履修させる。単位を取得した者には先住民族言語上級話者資格が与えられ、ファーストネーション言語教員免許状の取得が可能となる。その上で、最終学年において教職専門科目を履修させる。一般教育科目に英語がおかれてることや教職科目がカリキュラムや教授法に関わる科目が中心を占めていることは、1998年調査の結果をよく反映している。なお、カナダ史、カナダ地理学、カナダ学については先住民族史の科目や先住民族に焦点をあてた内容が用意されている。

表3 Nisga'a 語教員基礎免許状履修科目

Nisga'a 語レベル1	FN 言語イマージョン	教育基礎論
Nisga'a 語レベル2	FN 言語文法・会話レベル1	学習心理学
Nisga'a 語レベル3	FN 言語文法。会話レベル2	教授原理
Nisga'a 語レベル4	FN 言語イマージョン上級	学級ダイナミクス
	FN 言語メンターリング	第2言語カリキュラム論
	FN 言語の歌・詩	言語・リテラシー発達論
	FN スピーチ・物語	先住民族認識論
		教育実習1
		教育実習2
一般教育科目		
英文法学 英文学 数学 実験科学 カナダ史 カナダ地理学		

(凡例) FN は「ファーストネーション」の略

(出典) UNBC (2017)

基礎免許状の取得は、先住民族言語話者となることと一体のものとして構想されている。先住民族言語科目を履修した者には、当該言語の上級話者資格が授与される (UNBC 2017, Stò:lò Nation 2017)。SFU の教員で、ストロー民族であるローラ・ブカー (Laura Buker) は、Halq'emeylem 語の教員基礎免許養成課程の第1期卒業生に対し「Halq'emeylem 語に堪能なエルダーはほんの一握りしかいない中、これらの卒業生たちは、文化的にも言語的にも、救世主となるだろう」と述べた (Thorbes 2005 n.d.)。教員基礎免許養成課程は単なる教員養成ではなく、この制度自体が、先住民族言語継承者の育成そのものになっているのである。

これまでに認可を受けた先住民族言語と養成機関は表4のとおりである。いずれのプログラムも、先住民族自治体等と大学との共同運営となっている点が重要である。しかも、これらの地域の多くに、先住民族自治体が運営する「先住民族大学」が存在する。ギック

サン語協会のあるギックサン民族自治体には、ギックサン・ウェットスウェッテン教育カレッジ (Gitksan Wet'swet'en Education Society College : GWES College) があり、ストロー民族自治体にはシーバードカレッジ (Seabird College)、ケマイヌス民族自治体にはケマイヌス先住民カレッジ (Chemainus Native College)、ニスガ民族政府にはニスガ大学がある。NVIT はニコラバレー周辺地域の先住民族自治体を地盤とする州立の先住民族大学である。これらの機関はいずれも、先住民族成人学習高等教育協会に所属する先住民族大学である (IAHLA, *op. cit.*, 19-20)。先住民族言語教員を養成する実態的基盤が、先住民族自治体の中で形成されている点が重要である。

表4 ファーストネーション言語文化教員基礎免許状の設置者

先住民族言語	養成機関
Carrier (Nak'azdli dialect)	UNBC/ キャリア言語協会 (Carrier Linguistic Society)
Gitksan	UNBC / ギックサン語協会 (Siwiix'o'sxwim Wilnatahl Gitksan Society)
Haida	UNBC/ スキッドゲイト民族自治体 (Skidegate Tribal Council) 及び TRI-CORP
Halq'emeylem	SFU / ストロー民族自治体 (Stò:lō Nation)
Hul'qumi'num	VIU /ケマイナス民族自治体 (Chemainus First Nation)
Kwak'walla & Sliammon/Comox	UVIC /キャンベルリバー地域の先住民族自治体
Nisga'a	UNBC / ニスガ民族政府
Nuu-Chah-Nuluth	UVIC/ヌーチャヌルス民族自治体
Secwepemc, St'at'imc, Nlaka'pamux, Syilx	TRU / NVIT
Okanagan	UBC/ エノウィキンセンター
SENĆOŦEN	UVIC/ ウサネクW'SANEC教育委員会 (W'SANEC School Board)
Tahltan	UVIC/タールタン民族自治体 (Tahltan Nation)
Ts'msyen Sm'algyax	UNBC / ツィムシャン語当局 (Ts'msyen Smalgyax Authority)

(出典) Teacher Regulation Branch (2018b) Skidegate Band Council and TRICORP (2014) UVIC (2013) UVIC (2015) , UVIC (2016) より作成

表5は、「先住民族言語当局」が立ち上げられた先住民族言語と、当該言語の基礎免許養成課程の有無、先住民族言語の教科化の有無、当該言語を教授する「独立学校」の指定を受けた先住民族学校の有無を示したものである。36言語中18言語で、ファーストネーション言語文化基礎免許養成課程が認可されている。先住民族言語教員を自ら養成しようとする先住民族自治体が半数を占める。しかも、基礎免許養成課程をもつ20の言語のうち13言語までが、BC州の正規の第二言語科目として認可されている(網掛け部分)。逆に、第二言語として認可された16言語のうち13言語について、基礎免許養成課程が存在して

表5 先住民族言語教員基礎免許養成課程・第二言語・独立学校の設置状況

先住民族言語	言語当局等所在地	言語当局	基礎免許	第二言語	独立学校
Athabaskan	Vanderhoof	●			
Carrier/Nak'azdli	Quenel	-	●		○
Coast Salish	Cambell River	●			○
Danc-zaa	Fort St James	●			●
Dene	Fort Nelson	●			●
Gitxanimx	Hazalton	●	●	●	●
Halqemeylem	Chilwack	●	●	●	●
Heiltsuk	Bella Bella	●	●	●	●
Hu'lqumi'num-Coichan Diarect	Duncan	●			○
Hulquinum-Snuneymux Diarect	Nanaimo	●	●	●	●
Huu ay aht	Bamfield	●			
Ktunaxa	Cranbrook	●			●
Kwakwala	Port Hardy	●	●	●	●
Likwara/kwakwala	Cambell River	●	●	●	○
Musqueam	Vancouver	●			
Nisga'a	Gitwinkshihlkw	●	●	●	○
Nlaka'pamux	Lyton	●	●		●
Nsiylxcən	Okanagan	-	●	●	●
Nte?kepmxcin	Merritt	●		●	●
Nuu cha nulth	Port Alberni	●	●	●	●
Nuxalk	Hagenburg	●			●
Okanagan	Penticton	●	●		○
Secwepmc	Kamloops	●	●	●	●
SENĆOTEN	Brentwood	●	●	●	○
Hashishalhem	Sechelt	-		●	
Siamon/comox	Powell River	-	●		○
Skidegate dialects	Skidegate	●	●		
Smalgyax T'simshian	Terrace	●	●		●
Spi7uy Sqweqwlut.s	Williams Lake	●			
St'at'imc	Lillooet	●	●	●	○
Tahltan	Prince George	●	●		
Tsekene	Fort Ware	-		●	●
Tsilhqot'in	Williams Lake	●			
Ts'msyen Sm'algyax	Prince Rupert	●	●	●	●
Wuikala'	Port Hardy	●			○
Xayda kil	Masset	●		●	

(凡例) - Teacher Regulation Branch (2018)に記載されていない言語である。

●は該当することを示す。

○は先住民族自治体が運営する学校の存在を示す。

(出典) Government of BC (n.d.a), Government of BC (n.d.b), Teacher Regulation Branch (2018a) および本稿表4より作成。

いる。すなわち、先住民族言語教員の養成と先住民族言語の教科化は一体のものとして展開しているのである。実際、基礎免許状の制度の構築をになったファーストネーション教育運営委員会は、一方で、先住民族言語の教科化の仕組みづくりも進めていた（FNESC 2009, 15）。

先住民族言語教員の養成と先住民族言語の教科化が展開している地域の多くには、「独立学校」が設置されている（17言語中13言語）。これらの「独立学校」は、いずれも先住民族自治体が運営する学校である。州政府のカリキュラムの水準を保障することを条件に、州政府より学校運営費の50%の補助金を受けている（小川、2003、16）。先住民族言語や先住民族文化が正規科目として教授可能であれば、州政府のカリキュラム下にあっても、独自の民族教育の妨げにならないとの判断があったのではなかろうか。一般に、連邦政府管轄下の先住民族学校の予算規模は州政府管下の公立学校とくらべて極めて小さいことから（広瀬 2013, 37）、独立学校となったことで、より充実した教育環境を整えることが可能になっているように思われる。このことは、先住民族言語の継承には、教員養成、教科化、先住民族学校の健全な運営の3つが必要であることを示唆している。

ところで、これらの先住民族教員養成課程の資金についてであるが、ひとつは、先住民族遺産言語文化協会（First People's Heritage, Language and Culture Council）からの助成金である。この団体は、「先住民族遺産言語文化法（First People's Heritage, Language and Culture Act : [RBC1996] Chapter147）」に基づいて設置された団体である。この法律は、「ファーストネーションの遺産、言語、文化、芸術を保護するとともに、復興させ、高めること」や「先住民族自治体および非先住民族コミュニティの間で知識を理解し、共有することを促進する」こと等を目的とするものである（前文）。2004年、ファーストネーション教育運営委員会は先住民族遺産言語文化協会とともに「BC 戦略的言語復興計画（BC Strategic Language Revitalization Plan）」を立ち上げた。この計画には言語復興の優先事項トップ3と言語復興の目標トップ3が定められているが、言語復興の目標の最上位に、「言語教員の増加」を掲げた（FNESC 2005, 25）。

いまひとつの補助金は、「先住民族との新しい関係信用基金（New relationship Trust Fund）」によるものである（FNESC 2007, 14）。2005年3月にBC州の先住民族自治体で構成する諸団体とBC州政府が、カナダ君主と先住民族との和解をすすめるとともに、関係を改善することで合意し、2006年3月、この合意のもと、「先住民族との新しい関係信用基金法（New Relationship Trust Act : [SBC2006] Chapter6）」を制定した。この基金は、この法律に基づいて設置されたものである（MARR 2006,4,NRT 2007,5）。ファーストネーション教育運営委員会は、「新しい関係信用基金協会（New Relationship Trust Cooperation）」と協議し、2007年にはこの基金からの補助金を分配する役割を得ている（FNESC2008, 12-13）。すなわち、政府の関係機関が分配するのではなく、先住民族団体が自ら分配する仕組みを構築したのであった。

ファーストネーション教育運営委員会は、2011年、先住民族成人学習高等教育協会とともに、BC州教育学部長協会との間で覚書を交わし、効果的で適切な先住民族言語教員養成課程の推進、先住民族のニーズに効果的に応じる教員養成課程の推進、先住民族の知や資源、物質文化に対する先住民族のオーナーシップやコントロール、利用、所有の原則を発展させることに合意した。さらに、先住民族言語教員の専門性の開発に着手するとともに、

先住民族成人学習高等教育協会と協力して、ファーストネーション言語上級者学位の創設に着手した (FNESC 2015, 40-41)。この学位の創出は、ファーストネーション言語教員養成課程に入学し得る上級の言語話者が減少する中であって、言語復興と新しい言語話者を生み出し、ファーストネーション言語教員の増加を試みようとするものである (IAHLA, 2017, 9)。

2016年、ファーストネーション教育運営委員会は先住民族言語教員の専門性の開発に関しては、ファーストネーション言語教員メンター・アプレントイスプログラムを設置して一対一の300時間の先住民族語イメージングを提供した。また、ファーストネーション言語教員専門性・教材開発助成金を設けている (FNESC 2017, 26-27)。ファーストネーション言語上級者学位については、上級者学位の枠組みを策定し、パイロット事業を開始するべく、ニスガ大学、UNBC、UBCO (UBC オカナガン校)、UBC、NVIT、エノウィキンセンターとの間で「言語上級者学位コンソーシアム」を結成した。州高等教育省もこれに10万ドルを投じてこれを支援し、現在、開発が続けられている (IAHLA, *op. cit.*, 9)。

おわりに

以上の考察からまず明らかになったことは、カナダにおいては、「ファーストネーション学」ないし「先住民族学」という学問領域が存在するということである。とりわけ、先住民族言語科目に大学の単位を付与したことが、その後の先住民族言語教員養成制度の出発点となっていた。大学において先住民族言語・文化を教育研究し、先住民族に教授することが、先住民族言語・文化の継承の制度的基盤となっている。

第2に、先住民族教員の養成は、なるだけ先住民族居住地にて行おうとしてきたことを明らかにした。大学と先住民族自治体等の先住民族団体とが協議を重ねながらプログラムの運営をしている点に特色がある。教員基礎免許養成課程に関する補助金の分配にあたっては、ファーストネーション教育運営委員会がこの任にあたっている。大学の協力や財団等の補助金を得るのであっても、先住民族による教育自治の仕組みが確保されている点が重要である。

第3に先住民族言語教員の養成が、単なる教員養成ではなく、この制度そのものが、先住民族言語の継承者を養成するものであることを明らかにした。先住民族言語教員の養成と先住民族言語の教科化が一体のものとして展開していること、先住民族言語が教科となっている地域では、州の認可を受けている先住民族学校が多数存在することを指摘した。これらのことを踏まえると、先住民族言語を教科化し、これを担当する教員を養成するとともに、先住民族学校で教授することで、まさに、先住民族言語の継承を、学校教育の仕組みの中で保障することを可能にしている。

第4に、このような仕組みを、先住民族大学が州立大学とともに築いてきたことを明らかにした。セクウェプム文化・教育協会のような先住民族大学の存在が、大学レベルの先住民族言語教育プログラムの設置を可能にし、その後の上級話者養成プログラムの基盤をつくっていた。ファーストネーション言語文化基礎免許状の養成課程の立ち上げや運営に、数多くの先住民族大学が参画してきた。先住民族大学の存在は、先住民族言語の継承を確かなものとする制度的基盤となっている。

参考文献

- BC Studies (n.d.) : First Nations Language of BC. Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <http://bcstudies.com/?q=first-nations-languages-bc>
- Craig, Franki and Associates (2006) : *Review of The Developmental Standard Term Certificate (DSTC) in First Nations Language and Culture, Final Report*, Prepared for the First Nations Education Steering Committee (FNESC) .
- FNESC (First Nations Education Steering Committee) (2000) : *Annual Report 1999/2000*, FNESC, Northvancouver.
- FNESC (2002) : *Annual Report 2001/2002*, FNESC, Northvancouver
- FNESC (2005) : *Annual Report 2004/2005*, FNESC, Northvancouver.
- FNESC (2007) : *Annual Report 2006/2007*, FNESC, Northvancouver.
- FNESC (2008) : *Annual Report 2007/2008*, FNESC, Northvancouver.
- FNESC (2009) : *Annual Report 2008/2009*, FNESC, Northvancouver.
- FNESC (2015) : *Annual Report 2014/2015*, FNESC, Northvancouver.
- FNSA (First Nations School Association) (2015) : *First Nations School in British Columbia*. Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <http://www.fnsa.ca/wordpress/wp-content/uploads/2015/11/61231-FNSA-Active-School-Map-V7B3.pdf>
- Government of BC (n.d.a) : "Indigenous Language of British Columbia" Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <https://www2.gov.bc.ca/gov/content/education-training/k-12/teach/curriculum/languages-template/indigenous-languages>
- Government of BC (n.d.b) : "Independent School Information" Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : http://www.bced.gov.bc.ca/apps/imcl/imclWeb/IndSchool.do?school_category=Independent%20School
- Ignace, Marianne B (1998) : *Handbook for Aboriginal Language Program Planning in British Columbia*, A Report for the First Nations Education Steering Committee Aboriginal Language Sub Committee, First Nations Education Steering Committee, North Vancouver.
- IAHLA (Indigenous Adult and Higher Learning Association) (2017) : *Annual Report 2016/2017*, West Vancouver.
- MARR (Ministry of Aboriginal Relationship and Reconciliation) (2006) : *The New Relationship Progress Report Vol.1, Issue 1, April 2006*.
- NRT (New Relationship Trust) (2007) : *The New Relationship Trust, Strategic Plan : Investing Today for a Stronger Tomorrow*. November 30, 2006.
- Stó:lō Nation (2017) : "Stó:lō Nation Shxweli Halq'emeylem". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <http://www.stolonation.bc.ca/shxweli-language>
- SCEC and SFU (Secwepmc Cultural and Education Society and SFU) (1991) : *The Third Year : A Year of Consolidation, 1990- 1991 Annual Report*, Simon Fraser University, Burnaby.
- SCES and SFU (1994) : *The Fifth Report : A Great Leap Forward Bi-Annual Report of the SCES/ SFU Program Fall 1992- Spring 1994*, Simon Fraser University, Burnaby.
- SCES and SFU (1996) : *The Sixth Exploring New Horizon : Bi-Annual Report of the SCES/SFU Program Fall September 1994- Summer Semester 1996*, Simon Fraser University, Burnaby.
- Skidegate Band Council and TRICORP (2014) : Haida Language and Culture Certificate. February

- 28,2018, from the World Wide Web : http://www.skidegate.ca/Pages/public_notices/Haida%20Language%20Certificate.pdf
- SFU (Simon Fraser University) (n.d.) : "Community Based Teacher Education Programs".
Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <https://www.sfu.ca/education/centres-offices/indigenous-education/our-voices/indigenous-teacher-education-program.html>
- Teacher Regulation Branch, Ministry of Education, Government of British Columbia (2018a) : "List of Language Authorities". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <https://www.bcteacherregulation.ca/Teacher/FirstNationsLanguage.aspx>.
- Teacher Regulation Branch (2018b) : "Developmental Standard Term Certificate Programs in First Nation Language & Culture". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <http://www.bcteacherregulation.ca/teachereducation/teachereducationoverview.aspx>
- Teacher Regulation Branch (n.d.) : "Types of Certificates Issued by the Teacher Regulation Branch of the Ministry of Education". Retrieved February 28, 2018, from the World Wide Web : <https://www.bcteacherregulation.ca/Teacher/FirstNationsLanguage.aspx>.
- Thorbes, Carol (2005) : "Stó:lō Nation women set to perpetuate language, culture", *SFU News Online*, June 23, 2005. Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : http://www.sfu.ca/archive-sfunews/sfu_news/archives/sfunews06230516.shtml
- TRU (Thompson River University) (n.d.) : "First Nations Language Teachers". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <https://www.tru.ca/edsw/education/fnl.html>.
- UBC (University of British Columbia) (n.d.) : "NITEP - The Indigenous Teacher Education Program". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <http://nitep.educ.ubc.ca/about/>.
- UNBC (University of Northern British Columbia) (2017) : *2017-2018 Undergraduate Calendar*, Prince Rupert.
- UVIC (University of Victoria) (2013) : *SKEL, KEL* vol.4, no.1.
- UVIC (2015) : *SKEL, KEL* vol.4, no.1.
- UVIC (2016) : *SKEL, KEL* vol.6, no.1.
- UVIC (n.d.) : "Community-based program overview". Retrieved February 28, 2018 from the World Wide Web : <https://www.uvic.ca/education/indigenous/undergraduate/program/index.php>
- 広瀬健一郎 (2013) : ブリティッシュコロンビア州における先住民族教育自治権原体制下の先住民族教育権保障の展開 カナダ教育研究 11、カナダ教育学会
- 広瀬健一郎 (2014) : カナダにおける先住民族教育システム構築のための論理と戦略 日本社会教育学会編 アイヌ民族・先住民族教育の現在 (日本の社会教育第58集) 東洋館出版社。
- 広瀬健一郎 (2015) : カナダにおけるインディアン芸術政策の歴史 斎藤玲子編 カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題 (国立民族学博物館調査報告131) 国立民族学博物館。
- 小川 洋 (2003) : 民族融合の進むブリティッシュコロンビア州の教育改革 小林順子他編 21世紀にはばたくカナダの教育 (カナダの教育2) 東信堂。

【付記】 本稿は、2014 - 2017 年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C 課題番号 26381164) による研究成果の一部である。

